

杜乃雲

令和三年師走吉祥日発行

安来市伯太町西母里一三九
西八幡宮社務所
電話：〇八五四（三七）一一三〇
e-mail:hachimanguu@gmail.com

『年末は神棚大掃除して神札を新しく』

早いのもう師走となり、氏子の皆様におかれましては、なにかと気忙しく感じられる日々かと思えます。例年年末には、神社から新しい御神札を配布させて頂いておりますが、神棚の整え方や御神札の順番等、以外に知らない方も多いようです。次の世代への引き継ぎの為に、神棚について、正しい知識を確認しておきましょう。

①神棚について

まず、「神棚」というのは、神札を家庭で祀る為に設けられた専用の棚の事で、通常皆さんがイメージしているものは、正式には「宮形（みやがた）」という名称で呼ばれています。神棚は神さまをお祀りするところなので、明るく清浄な所に、神棚の向きを南向きか東向きにして、大人が見上げるくらいの高さに設けます。神棚をお祀りする場所は、家族がいつも集まることができるところであることが大切です。

神棚の真下を頻繁に通ったり、二階のある家では、神棚の上を歩くことになるような場所は避けたいものです。二階建て家屋の一階に設置する場合には、神棚の天井の部分に「雲」と半紙に墨書きしたものを貼る慣習になっています。

宮形には、扉の一つだけの一殿式（一社造り）の物と、扉が三つある三殿式（三社造り）があり、それぞれ中に納める神札の並び順に違いがあります。

②神札について

神棚に納める神札は、その納める並び順によって、三種類に別ける事が出来ます。

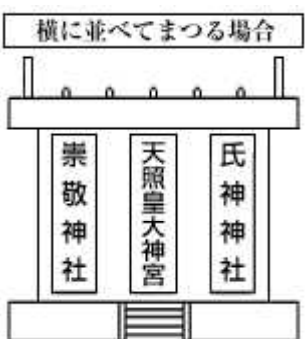
一番目のグループは、通称「御伊勢さま」や「神宮大麻（じんぐうたいま）」と呼ばれる伊勢神宮の「天照皇大神宮」（内宮）の神札やそれに属する「豊受大神宮」（外宮）その他の神宮の神札です。

二番目のグループは、住んでいる地域の、一宮^{*}（いちのみや）・二宮・三宮・総社（そうじゃ）と呼ばれる神社の神札と氏神さま・産土神社（皆様の場合は八幡宮）の神札です。三番目のグループは、家長や家族が個人的に縁があつて戴いてきた神札です。

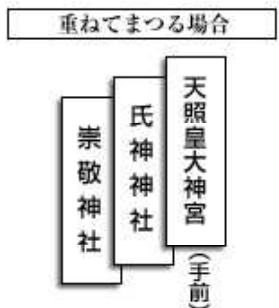
各グループ内では、一番上位・重要と思う神札を一番前に出します。

宮形が一殿式（一社造り）の場合には、各グループ順に、後ろに重ねていきます。（普通は「天照皇大神宮」が一番前になります。）

三殿式（三社造り）の



場合には、真ん中に一番目のグループ。向かって右側に二番目のグループ。向かって左側に三番目のグループの神札を納めます。



また、個人での祈願や祈祷の神札は、宮形の中に納めず、神棚の左側上に直接に並べて

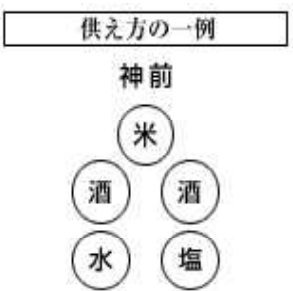
お祀りするほうが良いでしょう。

基本的には、毎年新しい神札を受けてきて交換します。毎年、神札を新しくするのは、新しい御神札で神様をお祀りすることにより、更なるご神威の発揚を願い、よりいっそうのご神徳を戴くためです。出来れば太陽の恵みに例えられる神宮大麻と、大地や住居を守護頂く産土神社神札をお祀り頂くのが、神棚祭祀の基本的な考え方です。また、古い神札は、一年間お守りいただいたことへ感謝を込めて、正月の左義長（とんどさん）でお炊き上げします。その他、神社からの神札や御守り以外のお下り物（撒菓・洗米・杓子・福箸など）は、神棚には置かず適宜使用します。

神棚へは、御米・御神酒・御塩・御水を、折敷の上にお供えします。

文面の都合上、簡単な説明しか出来ませんでした。

ご質問等があれば、神職に直接お聞き下さい。



新年縁起物『福夢寶来宝船図』について

例年、母里東西八幡宮にて、除夜歳旦参拝の皆様に、御籤にて縁起物をお配りしておりますが、毎年の縁起物として『福夢寶来宝船図』をご用意しています。

この縁起物は、開運招



福の宝船図で、枕下に置いて就寝し福夢（吉夢）を呼び込みます。図にあります「長き夜

の遠の睡りの 皆目醒め 波乗り船の 音の良

きかな」は回文歌で、初夢を視る為のまちな

ひ歌です。今回も、大塚八幡宮・両大神社の

新年社頭で頒布致します。ご参拝下さい。

『年末年始の行事予定』

十二月三十一日

除夜祭 大塚八幡宮・両大神社
東八幡宮・西八幡宮

一月一日零時

歳旦祭 西八幡宮・東八幡宮

一月五日十四時

大年神社 左義長祭

一月十日（月・祝日）九時

厄除・年賀祭 西八幡宮

厄除祭該当者（前後の生年が前厄・後厄）

厄年（19才・女子）平成十六年生まれの女性

厄年（25才・男子）平成十年生まれの男性

厄年（33才・女子）平成二年生まれの女性

厄年（42才・男子）昭和五十六年生まれ男性

厄年（64才・男女）昭和三十四年生まれの人

年賀祭該当者

還暦（61才・男女）昭和三十七年生まれの人

※該当の方は、各地区の神社総代様にご確認戴くか、神社に直接お申し込み戴ければ、祭祀のご案内ハガキを年明け発送致します。

「杜乃雫」は、明治～大正初めの頃に、八幡宮より発行してありました社報のタイトルで、この度、不定期刊行ながら復刊致しました。氏子の皆様とのコミュニケーションの一助となれば幸甚でございます。

*一宮 飛鳥・奈良時代に国司が天皇の代理でその国の有力神社を参拝した順序で、一宮・二宮・三宮と呼ばれた。ちなみに出雲国一宮は古代には熊野大社の方が上位で一宮とされていたが、中世に逆転し、出雲大社が一宮とされるようになった。